

済生ごう

— 第8号 —

発行日 H19.4.20

新年度を迎えて——新センターがスタート

桜の花も満開の人の心も春めいて何となくいい気持ちの今日この頃です。昭和30年（1955年）に江津市の山の手に開院した済生会病院は、52年目の春を迎え、今春から島根県庁にあった済生会支部が江津に移ることになりました。本部は東京です。済生会病院に松江から事務局の持田淳子さんが支部を開設されることになり総務課に机を並べられます。白寿園もご活躍された名コンビの湊時子園長さんと佐々木康子部長さんのお二人がそろって退職され、益子原峰雄さんが新園長に就任されました。また高砂病院とたかさご苑長の平田正名院長先生が済生会の副センター長として大所高所から済生会病院で療養病棟や心療内科の旗を立てて活躍されます。高砂病院へは隠岐病院の院長であった笠木重人先生が新院長として就任されました。高砂病院副院長は2月から矢富克介先生がすでに活躍しておられます。事務部長の永瀬裕さんも移転新築と旧病院の取り壊しをされ、県庁へ帰られ、吉川富男新事務部長が着任されました。まさに大移動の19年度春になりました。かくいう私も済生会支部業務担当理事に就任しました。ご退職の皆さんは本当につつがなく職務を全うされ、済生会の発展にご尽力されました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

春から録起のいい話を紹介します。心臓や肺が停止した人に使う自動体外除細動器（AED）という器械があります。最近、あちこちの公共の場所に備え付けられるようになって来ました。当院では職員こそって訓練を繰り返していますが、先般、当院職員が浜田市のゴルフ場で53歳の心肺停止の患者さんに遭遇し早速AEDの器械をつかって



〈旧病院前の桜の下で〉

心臓にショックを与えたところ、患者さんが息を吹き返し、駆けつけた救急隊員につなぎ浜田医療センターに運ばれ、患者さんが見事に元気になって退院されたという出来事が評判になっています。人命は地球より重いです。このような救命例は本県では2例目だそうです。備えあれば憂いなしです。日本列島どこにいても天災人災に負けないように心の準備をしたいものです（平成19年4月5日）。

院長 堀江 裕



島根県済生会江津総合病院

〒695-8505 島根県江津市江津町1016-37

TEL (0855) 54-0101(代) FAX (0855) 54-0171(代)

<http://www.saiseikai-gotsu.jp/>



回復期リハビリ病棟

師長 小原 千春

回復期リハビリ病棟は平成18年6月の開院時に新設されました。

病棟のスタッフは、看護師11名 看護助手8名です。回復期リハビリ病棟は身体機能の回復と、生活再建をできるだけ早く且つ、スムーズに行い、急性期と維持期を結ぶ重要な役割を担っています。そのため患者さんの機能障害の回復と社会復帰を目指して、医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・医療ソーシャルワーカーなど各専門職と目標設定を行います。

回復期リハビリ病棟では患者さんの入院生活の24時間を訓練と捉えて、すべてのケアが訓練の一場面になります。そのためには丁寧なケアの提供はもちろん、一つ一つの介助もおろそかにすることなく取り組まなければなりません。スタッフ同士で勉強会を行い研修会にも積極的に参加しレベルアップをはかっているところです。

一般病棟とは違って、患者さんは家庭での生活と同じように昼間はバジャマから私服に着替えて過ごしていただきます。「食事は食堂」で、「排泄はトイレへ」を合言葉に「オムツゼロ作戦」にも取り組んでいます。入浴も週2回以上とし、介助の必要な方にも心地よく入っていただけるように努力しています。

患者さんのQOLの向上を念頭に置き、訓練場面での「できるADL」を病棟生活場面での「しているADL」へと入院生活におけるケアを訓練と捉えて実践して行きたいと思えます。

今後も患者さんとその家族も含め、チーム全体で共通した目標設定を行い、問題解決に取り組んで行こうと考えています。

5階東病棟からの景色はすばらしく、四季折々の海の色も山の色も楽しめます。

どうぞ皆さん、一度回復期リハビリ病棟にお越し下さい。



健診センター

診療科案内



平田正名先生 ひらた まさな

☆専門分野：一般外科、麻酔科、心臓外科、熱帯医学、代謝内分泌、心療内科、老年科、精神科、と広く浅く研修してきております。

☆趣味：水泳、スキー、登山、バードウォッチング、読書、野草観察、パチンコ、めだかの飼育、その他なんでも。

☆先生よりメッセージ 中国では、大医は国を治し、中医は人を治し、小医は病を治すというそうですが、大医を目標にしてきました。(現状は小医レベルですが。)

皮膚科

診療科案内



大藤 聡先生 おおふじ さとし

☆専門分野：皮膚科一般

☆趣味：散歩

☆先生よりメッセージ 2年ぶりに勤務させていただきます。よろしくお願いします。

外科

診療科案内



山本 修先生 やまもと おさむ

☆専門分野：外科一般

☆先生よりメッセージ がんばりますのでよろしくお願いします。

整形外科

診療科案内



生越 智文先生 おごし ともふみ

☆専門医：日本整形外科学会専門医

☆専門分野：整形一般、骨粗しょう症

☆趣味：旅行、ダイビング

☆先生よりメッセージ ご迷惑をおかけしないよう頑張っていきますのでよろしくお願いします。

掲 示 板

平成19年6月1日より土曜日を休診とさせていただきます

当院では地域のみなさんのご要望にお応えするために第1・3土曜日の午前中を診療日としてきました。しかし、この体制では高度な医療を遂行するうえで医師をはじめ看護師の確保等様々な問題が生じて参りました。また、全国的に医療現場において過重労働が問題となっているなかで、医療における労働環境の改善を目指しているところでもあります。こうしたことから、平成19年6月1日より土曜日を休診とさせていただきます。

当院では地域の開業医の先生方と連携し、患者さんが安心して診療を続けられるよう「地域連携」に取り組んでいます。大きな検査・診療が必要になった場合には当院が全面的にサポートをさせていただきますのでどうぞご安心ください。

何卒、皆様のご理解をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

看護の日

近代看護を築いた「ナイチンゲール」の誕生日である5月12日は「看護の日」、この日を含む1週間を「看護週間」としています。当院では、下記の内容によりイベントを開催しますので病院を訪れる方は是非お気軽にお立ち寄りください。

日 時：5月8日（火）9：30～12：30

場 所：6階多目的ホール

内 容：看護（介護）相談、展示コーナー、お茶のサービス、健康チェック（身長・体重・BMI）



職員募集

◎看護職員

- 【資格】（1）平成20年3月卒業予定の方
（資格取得見込の方）
（2）助産師、看護師の資格を有している40歳くらいまでの方

※臨時・パートも募集しております。

【募集人数】20名

◎薬剤師

- 【資格】（1）平成20年3月卒業予定の方
（資格取得見込の方）
（2）薬剤師の資格を有している30歳くらいまでの方

【募集人数】1名

【募集方法】随時受付をしております。履歴書、資格免許証（写）を郵送してください。

【ご応募・お問い合わせ】

〒695-8505 江津市江津町 1016-37 TEL (0855) 54-0101 総務課 花田 稔彦

☆ホームページで詳細をご確認できます。http://www.saiseikai-gotsu.jp/

新事務部長紹介



吉川 富男 きっかわ とみお

☆出身：浜田市（旧弥栄村）

☆趣味：磯釣り

☆事務部長よりメッセージ

益田から通勤しています。よろしくお願いします。

鳥根県済生会“支部事務局”が移転してきました！

鳥根県済生会には、江津総合病院、高砂病院、たかさご苑、白寿園等の施設があります。これらの施設の取りまとめ、施設間あるいは本部や行政との橋渡し役をしている支部事務局が平成19年4月1日付けで松江から江津総合病院の中に移ってきました。江津に移ってきたことにより、より密接に迅速に各施設を結び、皆様にとって身近な利用しやすい済生会となるようにしていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願い致します。

【支部事務局の体制】

〈副総理事〉堀江 裕（江津総合病院院長）

〈参事〉吉川 富男（江津総合病院事務部長）

〈副参事〉森脇 博（江津総合病院事務次長）

〈係長〉持田 淳子

〈主事〉采須 隆将

母親教室のお知らせ

平成19年4月から9月の母親教室開催についてお知らせします。

	前期母親教室 (妊娠4～7ヶ月対象)	後期母親教室 (妊娠7～10ヶ月対象)
4月	5日	19日
5月	10日	17日
6月	7日	21日
7月	5日	19日
8月	2日	16日
9月	6日	20日

〈内 容〉

前 期：妊娠中の生活と注意点について
妊娠中の栄養について

後 期：お産の生理と過ごし方について
赤ちゃんの栄養について

お気軽にお越しください。詳細は産婦人科外来または3階東病棟まで。



☆ネウリ☆

呼吸療法認定士

“呼吸療法普及に努めています！”

近年、医学の進歩は目覚しく、高度医療の適応を広げています。このため、重症患者管理呼吸療法の重要性も認識されています。吸入療法、酸素療法、呼吸理学療法、および人工呼吸・呼吸療法は今や重要な治療手段として広く普及が望まれています。

しかし、各医療機関の共通の悩みとして、これら呼吸療法の現場に精通した医療人員の不足が上げられます。このことが呼吸療法普及の大きな障害となっているのが現状です。

そのため私たちは私たち自身が呼吸療法を継続学習し、レベルの向上に努めると共に、認定士制度の目的である呼吸療法普及に努めています。



池内寛記看護師・山崎由紀子理学療法士